

中川町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は、畑作・酪農を主体とした農業地帯であり、小麦・小豆・甜菜・南瓜・白菜・飼料作物を基幹作物として地理的条件を活かした土地活用型農業による農業生産を展開しているが、年々農業就業者の高齢化、後継者不足が深刻化し、加えて農畜産物の輸入自由化、農産価格の低落傾向により、経営規模の拡大等に伴う投資が厳しい状況にある。よって、需給バランスに応じた農産物の生産を行い、農業所得を安定的に確保するため、経営の複合化や多角化を図っていくことが必要である。また担い手の減少や高齢化が進行しているため、活力ある地域農業を確立するため、新規就農者や、担い手の確保育成が必要であり、農業生産法人の育成を図るとともに、個々の創意工夫により多様な農業経営や組織づくりの取り組みも必要である。

2 作物ごとの取組方針

- (1) 小麦～ 輪作体系の維持の観点から一定の面積を確保し、土づくりを推進し増収を図る
- (2) てん菜～ 寒地作物として安定した所得が確保されることと、輪作体系の維持から畑作指標に基づく面積の推進を図る。
- (3) そば～ そばの実需と販売契約により安定供給と安定価格を推進する。
- (4) 飼料作物～ 良質な自給飼料の確保を目指す
- (5) 野菜～ 連作障害を回避するための、輪作品目選定と地力増進作物の作付けによる土壌の健全化を図り安定収量の確保を促進する。
- (6) 不作付地の解消
現行耕作地 2,240ha の内、休閑地、不作付地を含め 190ha について輪作体系を維持しながら、地力増進作物、飼料作物等の作付けを行う。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 26 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米			
飼料用米			
米粉用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦	3.1	3.0	5.0
大豆			
飼料作物	2032.4	2035.0	2050.0
そば	80.6	80.0	80.5
てん菜	26.0	27.0	30.0
なたね	28.0	28.0	30.0
その他地域振興作物	84.7	87.0	100.0
野菜			
・白菜	6.3	7.0	10.0
・南瓜	69.2	70.0	80.0
・アスパラ	9.2	10.0	10.0
合計	2,254.8	2,266.0	2,295.5

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり